

⑥【ともに創る学びの

仲間たちへの取組み】

ともに学び喜びを得るために学習拠点を整備することが求められている。
そのために、生涯学習センター、スポーツ施設などを整備する。

(主な事業名)

- ・ 市民会館、大成荘、市民ギャラリーの運営（文スポ）
- ・ 中央公民館等の建替え調査研究（公）
- ◎ 中央公民館高幡台分室事業の充実（公）
 - ・ 学校施設開放事業（文スポ）
- ◎ 小中学校等体育施設の開放（文スポ）
 - ・ 学校体育施設の整備充実（文スポ）
 - ・ (仮称) 市民の森ふれあいホール設計業務（文スポ）
 - ・ 新グラウンドの設置（文スポ）
- ◎ 既存体育施設の整備充実（文スポ）
 - ・ 施設備品の充実（文スポ）
 - ・ 障害者訪問学級（文スポ）
 - ・ 少年学級、青年・成人学級（公）
 - ・ 科学・英語教室など（文スポ）
 - ・ 学校施設を利用した体験学習（公）
- ◎ 体験学習会・エコライフクラブ事業の開催（資料館）
- ◎ 遊び場開放（文スポ）
 - ・ 遊んで体力アップ（文スポ）
- ◎ 総合型地域スポーツクラブの設立準備（文スポ）
 - ・ HSS(日野スポーツスクール) の設立準備（文スポ）
 - ・ ニュースポーツ、ジュニアスポーツの普及
 - ・ 東京国体における開催競技種目の誘致（文スポ）

◎は評価対象事業

文スポ・・・文化スポーツ課
資料館・・・郷土資料館

公・・・中央公民館

基本方針	ともに創る学びの仲間たちへの取り組み	19年度実績	施設利用者数 291,368人
担当課	文化スポーツ課	事業費(円)	33,093,930
事業の名称		体育施設予約管理システム経費	
事業の目的・将来目標			
①公平な施設の予約。利用状況などの管理。利用者への施設情報の提供。 ②新しい施設の追加、指定管理者制度導入に対応できる新予約システムの構築 体育施設以外の施設(文化施設等)に運用の枠を広げ、市内公共施設の利用情報の提供、予約の受付を一元化し、利用者の利便性の向上と施設管理の効率化を図る。			
事業の概要			
①日野市体育施設予約システムの保守及び運用の管理 ②日野市体育施設予約システムの再構築			
事業の成果			
①本システムを使用した体育施設等利用者数： 291,368人 ②・システム再構築にあたり助成金の獲得 事業費 22,575,000円 助成額 10,480,000円 ・南平体育館を新たに管理施設として追加 ・運用見直しによる年間の管理コストの低減 従前 約600万円 20年度以降 約400万円			

事業の課題					
システム運用経費の負担					
所管部署評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	4	4	0	13	B
運用施設の拡充を行い、市民の利便性の向上と、施設管理の効率化を更に進める必要が有る。					
本部評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
市民評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価

【総合評価】A: 充実・拡大、B: 維持・継続、C: 見直し、D: 抜本見直し、E: 休止・廃止

基本方針	ともに創る学びの仲間たちへの取り組み	19年度実績	延べ開放日数 8,838日 利用者数 223,186人
担当課	文化スポーツ課	事業費(円)	7,924,238
事業の名称	小・中学校スポーツ開放経費 (◎小中学校等体育施設の開放)		
事業の目的・将来目標			
市民及び地域住民への学校体育施設の積極的な開放を促進し、スポーツを介した地域活動の場を提供することにより、地域交流の活性化を図る。			
事業の概要			
・小学校体育施設の地域団体への開放 ・中学校体育施設の市内団体への開放 ・開放に伴う施設維持			
事業の成果			
・小学校開放:校庭 1,644日、85,251人 体育館 3,540日、83,181人 ・中学校開放:校庭 199日、5,975人 体育館 1,601日、25,552人 テニスコート 1,361日、12,034人 校庭ナイター 493日、11,193人			

事業の課題					
・学校行事やクラブ活動、及び市の各事業との調整 ・利用者のモラル低下 ・ナイター施設の拡充					
所管部署評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	4	4	0	13	B
市民のスポーツ活動場所のひとつとして、学校体育施設は欠かせないものであり、利用者のモラル向上を図りつつ、開放事業を積極的に行っていく必要がある。					
本部評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
市民評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価

【総合評価】A:充実・拡大、B:維持・継続、C:見直し、D:抜本見直し、E:休止・廃止

基本方針	ともに創る学びの仲間たちへの取り組み	19年度実績	延べ開放日数 171日 延べ利用者数 16,824人
担当課	文化スポーツ課	事業費(円)	9,830,250
事業の名称		学校プール開放経費	
事業の目的・将来目標			
小学校の理解・協力のもと、地域の方々の体力づくり・健康増進、住民の交流及び児童等の居場所を確保する。 市民及び地域住民への開放を促進し、スポーツを介した地域活動の場を提供することにより、地域交流の活性化を図る。			
事業の概要			
PTAや地域の方々が中心となり、運営・管理を行う学校プール開放運営委員会を組織し、児童など学区域の方々に学校プールを開放する。			
事業の成果			
開催校数:18小学校 利用者数(延べ):16,824人 利用者数(18校平均):935人			

事業の課題					
・管理員・監視員の確保 ・利用者対象の拡大についての安全確保(不審者等)					
所管部署評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	5	4	2	16	A
この事業は根強い人気がある。現在、各校のPTA、保護者、地域市民の方々が中心となり運営委員会を組織している。実施するに当たり、地域の関係する人々の理解と協力が必要で不可欠な事業ある。また、充実したプール開放事業を行うには運営委員会が主体となって計画・実践していかなければならない。市としても協力体制をとっていく。					
本部評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	5	5	0	15	A
保護者を中心とする地域の方たちの協力により、夏休み期間中の子ども達の健全育成を図ることができた。天候にも恵まれ、のべ約17,000人が参加した。引き続き、公営プールの設置状況などの地域性を勘案した運営を検討していく。					
市民評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	5	5	0	15	A
日野市内には、市民が利用できるプールが実質的に2か所しかなく(市民プールと東部会館プール。生活・保健センタープールはとてもプールとは呼べるものではない)、市内18小学校のプールはこの不足を補う貴重な社会資源となっている。1校当たり平均8日(各2時間程度)とされるプール開放日をもう少し増やしてほしい思いもあるが、引き続きPTAの方たち(実行委員会)の協力を得、安全管理に万全の注意を払いながら、事業の拡大・充実に努めてもらいたい。					

【総合評価】A: 充実・拡大、B: 維持・継続、C: 見直し、D: 抜本見直し、E: 休止・廃止

基本方針	ともに創る学びの仲間たちへの取り組み	19年度実績	土曜開放利用者数 10,038人
担当課	文化スポーツ課	事業費(円)	2,176,470
事業の名称	遊び場開放経費 (◎遊び場開放)		
事業の目的・将来目標			
幼児及び児童への安全な遊び場の提供。			
事業の概要			
小学校の校庭を遊び場として幼児及び児童への開放。			
事業の成果			
突発的なことや緊急時への対応が可能となり、安全が確保されるとともに利用者も安心して利用できる。			

事業の課題					
・学校便り等でお知らせしているが、利用者が少ない学校がある(PRの検討)。 ・安定した管理人の確保。					
所管部署評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	4	4	2	15	A
開放するだけでなく、利用人数を増やす工夫(イベント等)や「ひのっち」との連携が必要と考える。 この開放事業については、安全・安心な子どもの遊び場を提供する事業観点から付加点2点とする。					
本部評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	3	3	0	11	B
地域子ども達が気軽に安心して遊べる場所を確保する意味で、必要な事業である。今後は、ただ開放するだけでなく、手軽なイベント等を行って利用者を増やす工夫も必要である。ひのっちとの連携した取組みも検討する。					
市民評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
4	2	2	0	8	C
小学校限定の校庭開放事業(平日午後は放課後子どもプラン「ひのっち」と混在、土曜は午前のみの実施)ではあるが、地域子どもたちに貴重な遊び場を提供している点で、大変に有意義な事業である。市内の小中学校では現在、本事業のほか、学童クラブ(毎週月～土曜日の放課後)、放課後子どもプラン「ひのっち」(毎週月～金曜日の放課後)、体育館開放(夜間・土日・祝日※小学校は自主管理委員会が利用調整、中学校は予約管理システムで運用)の各事業が、それぞれ別個に配置された異なる管理人のもとで展開されている。文化スポーツ行政全般を市長部局に移管する等の工夫を凝らして一元的な管理体制を構築し、一体的にこれらの事業展開を図っていくべきではないのか。					

【総合評価】A:充実・拡大、B:維持・継続、C:見直し、D:抜本見直し、E:休止・廃止

基本方針	ともに創る学びの仲間たちへの取り組み	19年度実績	利用者数 1,268人
担当課	文化スポーツ課	事業費(円)	2,470,200
事業の名称		駒形の渡し場経費	
事業の目的・将来目標			
市民プール開催期間中、浅川対岸の利用者の交通手段として渡し舟を設置し、利用者の利便性を確保する。 増水時にも流されない船着場の設置(増水時に撤去作業があるため)			
事業の概要			
市民プール開催期間中に、プールへの交通手段として浅川両岸を行き来する「駒形の渡し舟」を設置し、利用者の利便を図っている。			
事業の成果			
利用人数: 大人531人 子ども737人			

事業の課題					
・台風・タ立等による川の増水の影響を受けやすく、ほぼ毎年プール開催途中に船着場が流されている現状。 ・増水による渡し舟の陸揚げ時、人力作業の割には舟が大きく重量もあるため撤去作業の危険性。 ・近年の夏場特有の急な雷雨等も多く夜間・休日等の撤去対応の難しさがある。					
所管部署評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
1	3	3	3	10	C
・近年の異常気象の影響か、雷雨等により短時間での水位上昇に対する対応が困難になってきており、そのような状況の中で19年度のように2度も工事してまで運行する必要があるのか検討する必要がある。 ・河川を利用した少ない事業を考慮して、付加点数3とした。					
本部評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
市民評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価

【総合評価】A: 充実・拡大、B: 維持・継続、C: 見直し、D: 抜本見直し、E: 休止・廃止

基本方針	ともに創る学びの仲間たちへの取り組み	19年度実績	利用者数 260,699人
担当課	文化スポーツ課	事業費(円)	48,325,968
事業の名称		市民グラウンド管理経費	
事業の目的・将来目標			
各体育施設の円滑なる運営管理による市民の健康増進への寄与。 市民のスポーツ振興の拠点となる各体育施設の管理については、指定管理者制度を導入し効率化を図る。			
事業の概要			
市内体育施設(陸上競技場、テニスコート、グラウンド)の運営管理及び施設管理。			
事業の成果			
市民が安全で快適に各体育施設を使用することによって、スポーツ活動を通じた健康づくりに寄与することができた。			

事業の課題					
・職員が施設管理に追われ、本来のスポーツ振興策への取り組みが手薄となっている。 ・使用料及び減免規定の適正化。					
所管部署評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
4	4	4	0	12	B
市内に野球場が少なく、各団体から設置要望が多いためグラウンドを増やしていく。 指定管理者制度を導入し、効率化を図っていく。					
本部評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
市民評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価

【総合評価】A: 充実・拡大、B: 維持・継続、C: 見直し、D: 抜本見直し、E: 休止・廃止

基本方針	ともに創る学びの仲間たちへの取り組み	19年度実績	利用者数 92,262人
担当課	文化スポーツ課	事業費(円)	20,774,819
事業の名称	南平体育館管理経費 (◎既存体育施設の整備充実)		
事業の目的・将来目標			
南平体育館の円滑なる運用による市民の健康増進への寄与 市民のスポーツ振興の中核拠点機能を持つ南平体育館の管理については、平成22年に開設予定の(仮称)市民の森ふれあいホールと一体的な運用管理が出来るようにすること。また、指定管理者制度を導入し更なる運営の効率化を図る。			
事業の概要			
南平体育館の運営管理及び施設管理			
事業の成果			
南平体育館利用人数：延べ 92,262人			

事業の課題					
①使用料、減免規定の適正化 ②市民ニーズに沿ったかたちでの施設のリニューアル、運営の見直し(健康事業の拠点機能の拡充) ③職員が施設管理に追われ、本来のスポーツ振興策への取り組みが手薄となっている					
所管部署評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
4	3	4	0	11	B
適切な受益者負担の設定、指定管理者制度の導入により、事業効果を更に高める必要がある。					
本部評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
市民評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価

【総合評価】A:充実・拡大、B:維持・継続、C:見直し、D:抜本見直し、E:休止・廃止

基本方針	ともに創る学びの仲間たちへの取り組み	19年度実績	スポーツ教室への参加者数 143人 説明会への参加者数 46人
担当課	文化スポーツ課	事業費(円)	11,895,251
事業の名称	地域スポーツクラブ設立モデル事業経費 (◎総合型地域スポーツクラブの設立準備)		
事業の目的・将来目標			
日野市地域スポーツクラブ設立支援協議会を設置し、市内の地域スポーツクラブの設立支援策の検討を行うとともに、旧平山台小学校跡地を拠点としたクラブ設立に必要な準備・検討を行う設立準備委員会を発足させる。 平成20年度に旧平山台小学校跡地を拠点とした地域スポーツクラブを設立し、平成21年度からの本格活動を目指す。クラブの活動を通し、体を動かすきっかけづくりや健康づくりの場の提供や、豊かな地域づくりに貢献する。			
事業の概要			
地域スポーツクラブの設立支援のため、東京都の地域スポーツクラブ設立モデル事業を受託し、クラブの設立を進め、市民が気軽に健康づくりができるようにニュースポーツや健康体操などのプログラムを提供していく。			
事業の成果			
日野市地域スポーツクラブ設立支援協議会 9回開催 ニュースポーツ体験教室 14回実施 延べ143人参加 スキルアップ研修 2回実施 延べ17人参加 (仮称)日野健康スポーツクラブ設立準備委員会発足会 1回開催、説明会の実施 3回開催 延べ46人参加 地域における健康・スポーツ調査の実施 1,650世帯へ送付 482世帯より回収			

事業の課題					
地元自治会、スポーツ団体等との連携・協力 クラブの中心人物の育成 指導者の安定的な確保					
所管部署評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
4	4	4	3	15	A
平成19年度は、設立支援協議会の設置及び設立準備委員会の発足がなされ、概ね予定通りの事業進捗が図れた。 平成20年度は、課題である地域団体との調整及び人材育成に力を入れ、クラブ設立に向け事業を継続していく。					
本部評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
市民評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価

【総合評価】A: 充実・拡大、B: 維持・継続、C: 見直し、D: 抜本見直し、E: 休止・廃止

基本方針	ともに創る学びの仲間たちへの取り組み	19年度実績	登録者数 123人 延べ参加者数 933人
担当課	郷土資料館	事業費(円)	2,125,980
事業の名称	エコライフクラブ活動支援事業経費 (◎体験学習会・エコライフクラブ事業の開催)		
事業の目的・将来目標			
農作業などを通して親子の交流、参加者や運営委員・指導者との交流などを通して食育・環境学習を参加者の自主的な取り組みによって実施する。 日野の地域で昔から行われてきた田んぼでの米作りや食べ物作りなどの活動を中心にして、身近にあるものを暮らしに生かしてきた知恵を学び、体験することを通して安全・安心で環境への負荷の少ない生活の在り方を考える機会を作る。			
事業の概要			
会員登録制のクラブで、小学校在学中の子どもと親を主な対象とし、米・麦・そば・大豆・芋などを自ら作り、加工して食べたりわらを使って道具を作ったりする体験を通して、安心・安全な食のあり方や、昔の人の生活の知恵を学ぶ。			
事業の成果			
無駄の少ない昔ながらの農業体験をすることで、食育・環境を考えるきっかけとなった。運営委員・参加者による自主的な取り組みが生まれてきた。			

事業の課題					
事業運営にあたっては、マンパワーの安定的な確保、体験場所の確保が必要となっている。					
所管部署評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	5	5	3	18	A
当事業を通して、参加家族、子ども同士の交流が図られ、昔の生活の知恵を学ぶ活動として十分な成果を上げることができた。					
本部評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
市民評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価

【総合評価】A: 充実・拡大、B: 維持・継続、C: 見直し、D: 抜本見直し、E: 休止・廃止

基本方針	ともに創る学びの仲間たちへの取り組み	19年度実績	利用者数 19,617人
担当課	中央公民館	事業費(円)	9,302,150
事業の名称	中央公民館高幡台分室運営 (◎中央公民館高幡台分室事業の充実)		
事業の目的・将来目標			
施設整備と主催事業の拡充 人や仲間との出会い、趣味や教養、生きがいとの出会いを創出し、コミュニティの形成を図る公民館活動の浅川以南の拠点。			
事業の概要			
浅川以南の公民館活動拠点として設置した高幡台分室において、市民の多様な学習要望に応じた生涯学習のカリキュラムを組み、様々な事業を実施している。また、市民の自主サークル活動のサポートを行っている。			
事業の成果			
インターネット環境も備えたパソコンを21台設置するとともに高齢者や一般市民対象のパソコン教室を開催。職員の手による部屋・廊下の塗装と談話室の設置。市民寄贈によるピアノを設置。			

事業の課題					
公民館活動においては、市民の学習や諸活動をサポートする職員の役割が重要とされている。しかしながら高幡分室では、現在週3日勤務の非常勤職員と受付業務を行うシルバー人材センター派遣の方のみの配置である。常勤職員の配置をどのように担保していくのが最重要課題である。					
所管部署評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	2	3	1	11	B
分室が設置され4年が経過し、浅川以南(七生地区)の学習・諸活動の拠点として市民から認知がされてきた。					
本部評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	4	5	0	14	B
高幡台分室は、市民要望に基づき、南部地域の生涯学習の場として開設した。交通の便が悪い中で、年間のべ2万人近くの利用者があった。本館と同じ機能を持たせる必要はないが、引き続き使いやすい開かれた分室として運営していく。					
市民評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
4	2	3	0	9	C
市の南部地域の公民館の必要性は認めるが、立地が影響しているのか、稼動状況は改善の余地がある。市民ニーズに合わせた事業を行って、利用率を高めてほしい。また、利用者が特定の人に限られているように見える。底辺を広げる努力をお願いしたい。					

【総合評価】A: 充実・拡大、B: 維持・継続、C: 見直し、D: 抜本見直し、E: 休止・廃止

基本方針	ともに創る学びの仲間たちへの取り組み	19年度実績	参加者数 2,175人 延べ講座回数 97回
担当課	中央公民館	事業費(円)	7,899,200
事業の名称		青少年・学校5日制対応事業経費	
事業の目的・将来目標			
自分から楽しみを見つけ前向きに活動できる子どもの育成と地域の人材の活用。 社会体験の機会を提供し、人間関係を円滑に行える健全な子どもの育成と地域力の向上を目指す。			
事業の概要			
主に土曜日や休日を利用して、子どもたちが評価を気にすることなく楽しめる、学校を超えた体験学習等の場を提供し、調理や音楽、工作、科学実験等の中で、学び・遊び・ふれあいの場をつくり上げる。①子ども囲碁・将棋体験道場②夏休みわくわく学習術③子ども創作ミュージカル④君もカーデザイナー⑤春休みわくわく学習術⑥ヒップホップダンス⑦英語でクッキング⑧楽しいアニメづくり他			
事業の成果			
民間企業や大学との連携により、行政の企画のみならず様々な学習機会の提供ができた。			

事業の課題					
青年層向けの事業の展開、周知。					
所管部署評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	3	4	0	12	B
居場所づくりのみならず、地域の教育力の向上やコミュニティの形成を図る。					
本部評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	3	4	0	12	B
民間企業や大学との連携により、異年齢あるいは学校を超えた体験学習等、約100講座が行われ、青少年の健全育成につながった。引き続き実施し、青少年の居場所づくりと地域の教育力の向上を目指す。					
市民評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
3	2	3	0	8	C
内容的に充実している割には、利用者が集まっていない。目的としている「人間関係を円滑に行える健全な子どもの育成と地域力の向上」につながっているのか、大いに疑問である。児童館でも同種の事業を行っている。子どもへの事業は児童館に任せた方がいいのではないかな。なお、「学校5日制対応事業」の名称はもう変えるべきである。					

【総合評価】A: 充実・拡大、B: 維持・継続、C: 見直し、D: 抜本見直し、E: 休止・廃止